

きよなんまちの 観光情報

鋸山(ノギリヤマ)日本寺情報
(日本寺・大仏・石仏など)

佐久間ダム情報
(桜・バス釣り・キャンプ)

水仙情報
(江月水仙ロードほか)

観光名所案内
(その他の観光名所)

釣船情報
(※観光協会へリンク)

宿泊情報
(※観光協会へリンク)

食事処案内
(※観光協会へリンク)

花摘み体験情報
(※観光協会へリンク)

マリンスポーツ情報
(※観光協会へリンク)

おみやげ屋
(※観光協会へリンク)

観光バスで
町内を一周してみよう



鋸山町 ウォーキングロード

鋸山(日本寺)
881KB 

菱川師宣記念館
1.16MB 

水仙ロード
812KB 

ウォーキングマップ
3.07MB 

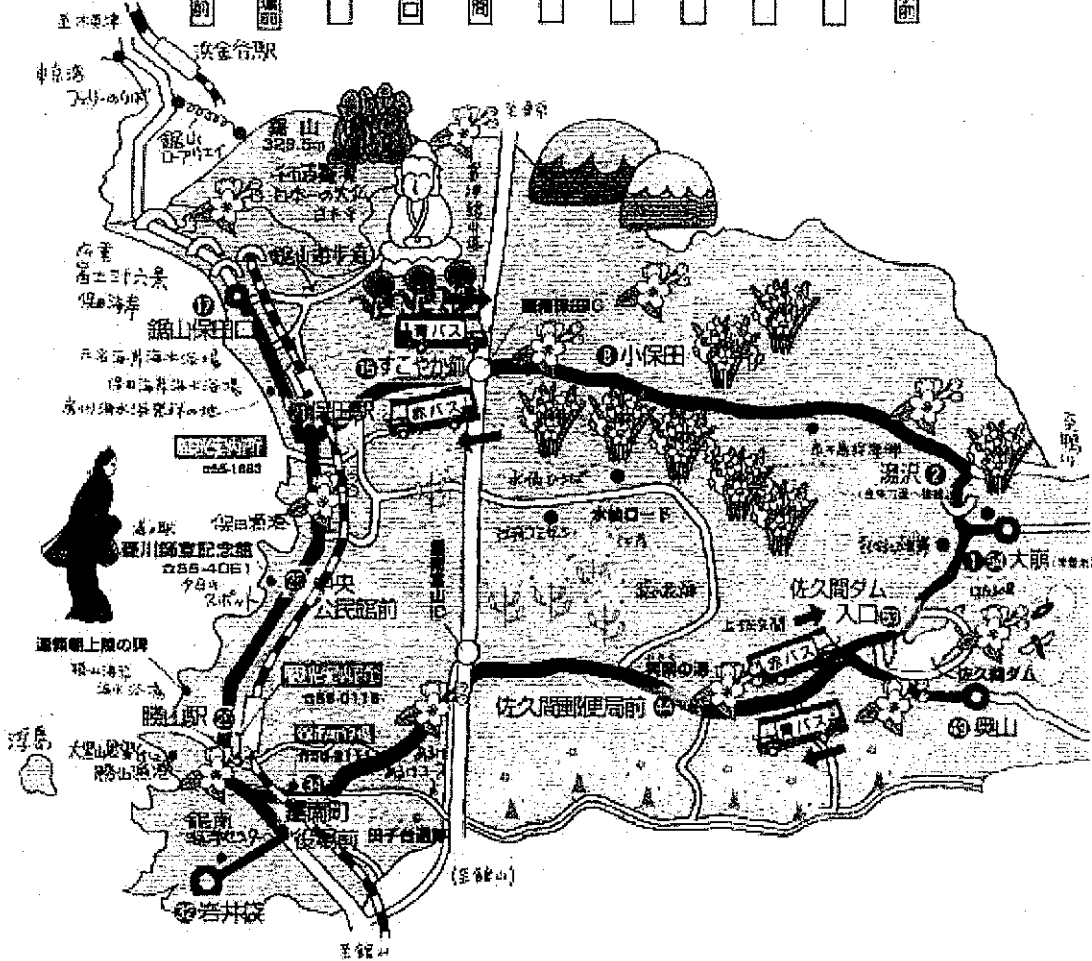
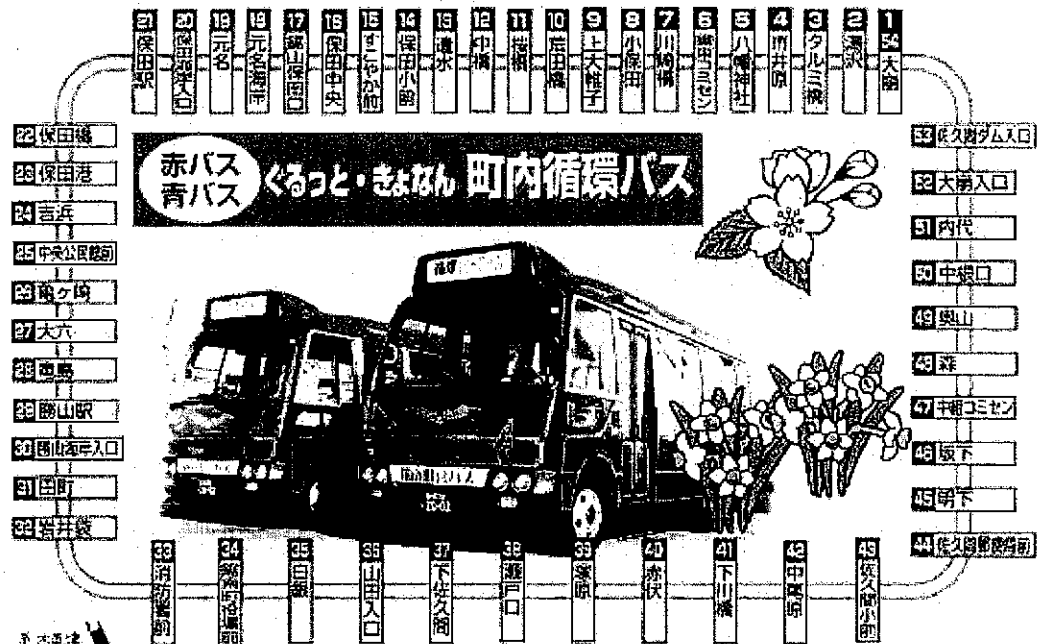
「きよなん」ガイドマップ
707KB 

をくづれ水仙郷
473KB 

笑楽の湯アクセスマップ 
1.29MB

笑楽の湯パンフレット 
671KB

町営循環バスルート



1. 大崩	2. 湯沢	3. タルミ橋	4. 市井原	5. 八幡神社	6. 鋸東コミセン
7. 川崎橋	8. 小保田	9. 上大帷子	10. 荒田橋	11. 桜橋	12. 中橋

13.遣水	14.保田小前	15.すこやか前	16.保田中央	17.鋸山保田口	18.元名海岸
19.元名	20.保田海岸入口	21.保田駅	22.保田橋	23.保田港	24.吉浜
25.中央公民館前	26.亀ヶ崎	27.大六	28.竜島	29.勝山駅	30.勝山海岸入口
31.田町	32.岩井袋	33.消防署前	34.鋸南町役場前	35.白銀	36.山田入口
37.下佐久間	38.瀬戸口	39.塚原	40.赤伏	41.下川橋	42.中尾橋
43.佐久間小前	44.佐久間郵便局前	45.明下	46.坂下	47.中組コミセン	48.森
49.奥山	50.中根口	51.内代	52.大崩入口	53.佐久間ダム入口	

鎌倉市

4.まちづくりの主要課題

第3次総合計画策定時の市民意向調査の結果など、様々な資料・データについて整理・分析を行い、鎌倉のまちづくりの主要な課題を、次の5つにまとめました。

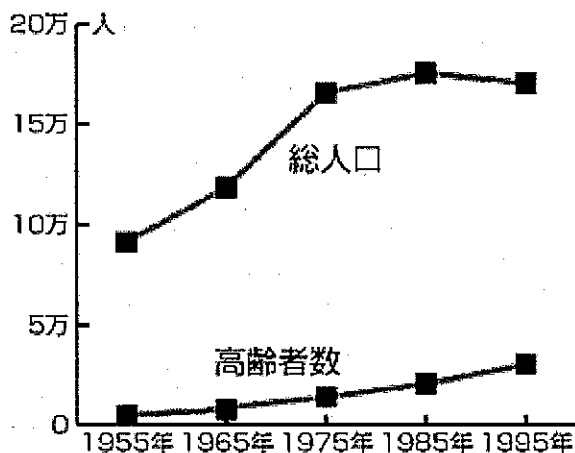
(1)都市の成熟化への対応

人口は、将来的に減少し、高齢化がますます進むことが予想されます。第3次総合計画によると、2005年までに4,000人の人口減少が見込まれ、人口維持の方策が求められています。このため、今後は、若年ファミリー層*の定住を考えた住環境の整備が望まれます。

さらに、高齢者、障害者等に配慮した都市整備、既成市街地における住環境の整備や保全、防災性の向上、まち並みの維持・改善など、成熟したまちとしての対応が必要です。

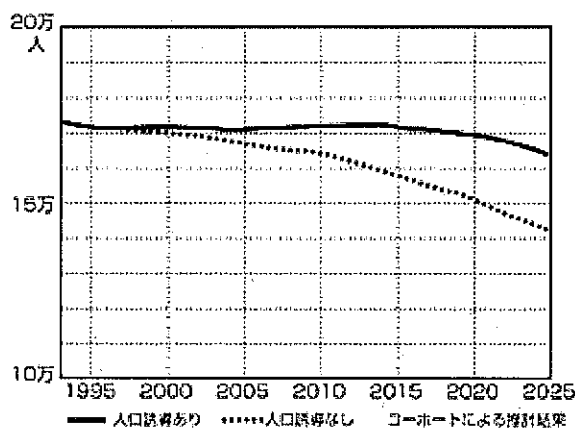
また、今後は、本市を訪れる多くの人々や、鎌倉を愛する人々などとの広域的な連携や交流を考慮に入れた活気あるまちづくりが求められています。

図 総人口、高齢者数の推移



資料: 国勢調査

図 鎌倉市将来推計人口



資料: 第3次総合計画

(2)自然的・歴史的環境との共生

本市特有の、歴史と自然が一体となった環境を保全することが、大きな課題の1つです。これらの環境とまち並みの調和や、残された洋館などを活かしたまちづくりも求められています。

さらに、緑地の保全や、自然生態系に配慮した水環境の改善・向上、二酸化炭素の排出量削減など、地球環境保全への配慮や対応なども重要です。



(3)多様な地域性への対応

市全体として、バランスのとれたまちづくりを進めるために、全市レベルでの望ましい都市構造・土地利用構成の検討を行うことが必要ですが、その一方で、地域ごとに異なる特性や課題に対応したまちづくりを行うことが大切です。

また、各地域の特性を活かした産業の育成・振興(農漁業、工業、商業、観光等)、及び職住近接の実現や高齢者の就業の場の確保などは、まちの活性化にとっても重要です。





(4)鎌倉の特性に応じた交通環境の実現

市街地における道路の整備水準の低さ、及び休日や夏期の交通渋滞などに対し、特に鎌倉地域における自動車利用の抑制や、東海道本線沿いの地域などにおける基盤整備など、自動車交通への対応が必要となります。

また、歩行者空間の充実、自転車利用の促進、公共交通機関の充実などの対応が必要です。



(5)都市機能の充実

市民ニーズに対応した公共公益サービス、文化・スポーツ・レクリエーションなどの都市機能を充実させるための施設整備や、既存施設の有効利用・サービスの充実など、柔軟な発想に基づく施設整備が求められています。

表 鎌倉市都市マスタープラン・主要課題に対する具体的な課題、対応の方向

主要課題	具体的な課題、対応の方向
1.都市の成熟化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ◇若年ファミリー層*等の居住条件整備 ◇ノーマライゼーション*の視点に立った都市整備(高齢者、障害者等への対応) ◇住環境の整備(良好な住環境の保全、防災性の向上、まち並みの維持改善など) ◇交流人口*を考慮した活気あるまちづくり

2.自然的・歴史的環境との共生	<ul style="list-style-type: none"> ◇自然的・歴史的環境とまち並みの調和 ◇洋館などを活かしたまちづくり ◇民有地緑地の保全等のあり方 ◇自然生態系に配慮した水環境の改善・向上 ◇地球環境・都市環境問題への対応
3.多様な地域性への対応	<ul style="list-style-type: none"> ◇本市全体としての望ましい都市構造・土地利用構成の検討 ◇各地域の市街地の特性と課題に対応した都市整備や住環境整備(歴史的市街地、計画開発住宅地、密集市街地、商業業務地等) ◇地域の特性を活かした産業の活性化(農漁業、工業、商業、観光等の産業の育成・振興、職住近接の実現、高齢者の就業の場の確保等)
4.鎌倉の特性に応じた交通環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> ◇鎌倉地域における自動車利用の抑制、東海道本線沿いの地域などにおける基盤整備など自動車交通への対応 ◇歩行者空間の充実と歩行及び自転車利用の促進 ◇バスなどの公共交通機関の充実(自動車利用の抑制、高齢者対応などのため)
5.都市機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◇既存施設の有効利用やサービスの充実など新しい柔軟な発想に基づく施設整備(医療福祉、スポーツ、文化施設等市民ニーズへの対応、拠点整備における施設整備)

I.主要課題の把握に戻る
[鎌倉市都市マスタープランのページに戻る](#)

多摩ニュータウン学会

多摩NT学会とは

多摩ニュータウンに関する情報発信Webです。総合的、学際的に多摩ニュータウンについて学習、研究する団体です。市民、大学、企業、行政のパートナーシップにより、新たな地域学を目指す非営利団体(NPO)です。

学会組織

入会申込

部会活動

研究会

定期総会

研究大会

学会誌

多摩NTウォッチャー

女性会員交流会

RAINBOW

ニュース

ロゴマーク

多摩NTへのリンク



070069

NEW

多摩ニュータウン学会

2005年度公開シンポジウム開催のご案内

「縄文、里山、そしてニュータウン～中沢新一さんからのメッセージ」

市民・大学関係者・自治体関係者・企業関係者で構成される街づくりNPO「多摩ニュータウン学会」では、以下の要領で、恒例の公開シンポジウムを開催いたします。

基調講演として、現代哲学の旗手として活躍めざましい中央大学総合政策学部の中沢新一さんをお招きし、「環境」をキーワードに、過去から未来へ引き継いでいくもの、ニュータウンという都市環境でのライフスタイル、生き方について語っていただく予定です。

後半のパネルディスカッションでは、パネラーに中沢さんのほか、広く多摩地域で市民の立場でごみリサイクルの実践に取り組んでいる江尻京子さん、炭焼きなどを通じた自然とのふれあい活動に取り組んでいる祐乗坊進さんに加わっていただき、多摩ニュータウン地域の豊かな環境資源を生かした21世紀のまちづくりについて、大いに語っていただきます。

記

●主催：多摩ニュータウン学会

●日時：2005年5月22日(日) 13:30～16:00 (開場13:00)

設立趣意書

[生活サポートアンケート] [設立趣意書] [会則] [事業計画]

現在、多摩ニュータウンは新たな転換期にあります。世界都市東京の西郊に広がる丘陵を開発してできあがった多摩ニュータウンは、入居開始以来すでに四半世紀が経過しました。この間の社会の変化に伴い、その性格も単なる東京のベッドタウンから、業務都市、学園都市の機能を併せ持つ多機能型都市へと変化してきました。ニュータウン人口は現在17万人を超え、「新山の手」と呼ばれる良質な住宅地域が形成されつつありますが、その一方で、開発初期の入居地区では人口の高齢化や小・中学校の統廃合等、開発当初には予想しにくかった新たな現象も様々生じてきています。また、行政上、八王子・町田・多摩・稲城の四つの自治体にまたがる多摩ニュータウンは、広域行政の「実験の場」としても大いに関心を集めています。

このように多摩ニュータウンは、計画当初より各方面から注目され、域内の大学ではニュータウン関連の公開講座・シンポジウムが開催され、多摩ニュータウンを知りたいという地元の方々の要望に答えてきました。しかしながら、こうした試みはいずれも単発的で継続性に欠け、その成果が蓄積されることが少ないために、それを惜しむ声が参加者や研究機関の方々から多く寄せられてきました。

そこで、ニュータウン開発以前からの歴史・文化を継承し、新たに学び・創る「郷土の学」として、また「地域創造の学」として、多摩ニュータウンを研究する多摩ニュータウン学をここに提唱します。多摩ニュータウン学は、居住・生産・消費・文化活動の拠点としての多摩ニュータウンならびにその周辺地域で起こっている様々な社会現象・自然現象を、学際的・総合的に研究し、学問としての体系化を図るとともに、研究成果をニュータウン地域の生活と文化の向上に役立てることを目的としています。さらには、国内・外のニュータウンとの比較研究を通して、より広い視野から多摩ニュータウンをとらえることも目指しています。

以上の目的のもとに組織される多摩ニュータウン学会は、とりわけ次の三つの視点を大切にします。1)生涯学習と情報発信も視野に入れた、学際的・総合的アプローチによる研究・学習の視点。2)市民の立場で自主的活動として参加する生活者の視点。3)地域社会に貢献しうる調査・研究を行ない、それらに基づき政策提言を行なう社会貢献の視点。したがって、本会は、研究者はもちろんのこと、ニュータウン地域で生活する一般市民や企業・官庁の方々を始め、多摩ニュータウンに関心をもつ方であれば誰でも自由に参加することができる開かれた学会です。

経済のグローバル化やインターネットの普及により、国境の持つ意味が消失しつつある今こそ、自分たちの生活地域をしっかりと見つめ直すことが必要であると考えます。多摩ニュータウンという新しく造られた地域を対象とし、市民・研究機関・事業者・行政等が協同して研究・学習するという新しい試みを通して、持続可能な地域社会創りに貢献できる新たな地域学としての多摩ニュータウン学を構築しようではありませんか。その研究・学習・実践の場としての多摩ニュータウン学会の設立を、ここに提案します。



ベルコリーヌ南大沢

<p>【情報ネットワーク部会】</p> <p><u>これまでの活動</u></p> <p><u>1999年の活動案</u></p> <p><u>2000年の活動案</u></p> <p>1)学会の情報ネットワークを構築し、情報交換、会員のネットワーク化を促進することに関する事項 2)地域の情報ネットワークとの連携、情報交換、ネットワーク化の推進、啓蒙に関する事項 3)地域の情報ネットワークに関する研究 4)その他、情報ネットワーク全般に関する事項</p>	<p>【スマートグロース部会】</p> <p><u>これまでの活動</u></p> <p><u>1999年の活動案</u></p> <p><u>2000年の活動案</u></p> <p>月に1回程度の勉強会を開催(場所は都心の場合が多い/原則第3水曜日夜)</p> <p>スマート・グロースとは、 1)環境にやさしい開発様式を選択する、 2)官民のパートナーシップを革新的アイデアと情報共有で推進する、 3)コミュニティの自発性と活性化を軸としたビジネスの展開を促進する、 4)種々の活動の時間的・空間的多様性を機能以上に重視する、 5)効率性と公平性をともに重視した開発プロセスをめざす、ことよって、住民にやさしく、環境にやさしく、官民の弾力的な連結性を前提とする「街づくり」を実現するための開発概念である。この実現を多摩でめざす。</p>
<p>【コミュニティ部会】</p> <p><u>これまでの活動</u></p> <p><u>1999年の活動案</u></p> <p><u>2000年の活動案</u></p> <p>1)生活の舞台としてのコミュニティと、そこで発生するさまざまな生活課題に関する理論的検討、実態調査及び研究 2)コミュニティ論、生活課題及びコミュニティ活動</p>	<p>【まちづくり部会】</p> <p><u>これまでの活動</u></p> <p><u>1999年の活動案</u></p> <p><u>2000年の活動案</u></p> <p>月に1回程度の勉強会を開催する予定 1)これまでのニュータウン開発に関する調査・研究 2)少子・高齢化、安全と安心などこれからの街づくりに関する研究 3)データベース構築; 多摩ニュータウンあるいは他のニュータウン研究に関</p>

に関する文献、資料、情報の収集と整理・分析

- 3) コミュニティ活動の連携、情報交換、ネットワーク化の推進・啓発活動
- 4) 月一回程度の定期的部会を開き随時、研究会、ワークショップ、講演会等を企画し市民の啓発及び研究成果の公表につとめる
- 5) その他、コミュニティに関わる必要な事項

* 個別テーマ例

- ・青少年、女性、高齢者、子育て
- ・管理組合・自治会、コミュニティ活動
- ・世代間交流・支援、環境

連する書籍、論文、映像情報など収集整理し、様々なニュータウン研究に役立つデータベースの構築。他部会での利用可能なデータベース化を目指す。

1 都市計画の基本的な方針

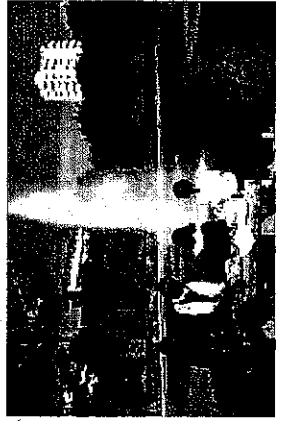
多摩市は、昭和30年代に計画された地域の6割を占める多摩ニュータウンの建設をはじめ、都市基盤整備や生活関連施設の整備など計画的なまちづくりを進め、住宅を主体とした都市として、飛躍的に発展してきました。

多摩市では、計画的なまちづくりの推進にあたり「多摩市総合計画」を策定し着実に計画を進めてきました。総合計画は多摩市における総合的な行政運営の方針を示すもので、福祉や教育などソフト面も含めた計画となっていますが、「都市計画」に関する基本的な方針はその中の都市計画の総合的なマスタープランとして、おおむね20年後という長期的視点に立って、まちづくりの目標や地域のイメージなど大きな方向性を示し、都市全体のまちづくりの目標及びまちづくりの基本方針(土地利用、都市施設及び市街地開発事業など)を明らかにし、具体的に都市計画道路・公園・住宅などハード面の整備計画や手法に加え、実効に向けた具体的な市民参加の手法などを描くものです。

今後、多摩市で定める都市計画は、この方針に則して決定するとともに、多摩市や東京都などの行政だけでなく、市民や民間とも協働してまちづくりを推進していきます。

2 目標年次と人口

本方針の目標年次はおおむね20年後の平成30年に設定します。また、第三次多摩市総合計画基本計画では、平成17(西暦2005)年度における人口を164,000人と推計しています。本方針においては、計画期間中の人口推移および将来推計人口については、この総合計画基本計画を基本とします。



3 まちづくりの目標

本方針におけるまちづくりの目標は、「多摩市総合計画基本構想」の「まちづくりの基本姿勢」と「都市づくりの目標」を受け、周辺に迫った少子高齢化社会の到来や、ゆとりと安心できる生活などを求める社会背景を展望し、また、現存する豊かな自然環境や市民・産業など地域がいきいきと活動するまちを基盤とする「ゆとりとふれあいの生活都市・多摩」としました。

多摩市総合計画基本構想

- 都市像
『太陽と緑に映える都市』
～心のふれあいういさいき多摩
- まちづくりの基本姿勢
1 市民主体のまちづくり
2 人間尊重のまちづくり
3 多摩・新時代のまちづくり

●都市づくりの目標

- 1 みずみずしい創意にあふれる都市
- 2 活気とにぎわいのある都市
- 3 自然と調和した快適な都市
- 4 やさしさのあふれるのびやかな都市
- 5 心豊かな文化のかおる都市

多摩市都市計画に関する基本的な方針

●まちづくりの目標

ゆとりとふれあいの生活都市・多摩

4 まちづくりの方向

●良好な住環境の形成を図るまちづくり

適正な土地利用や空間の確保を誘導する必要がある地区においては、住環境の整った都市形成を図るため、適切な用途地域や地区計画などにより建物用途の混在や密集化を防止するとともに、土地区画整理事業などの市街地開発事業による計画的な開発整備に努めていきます。また、すでに良好な住環境が形成されている地区については、地区計画の活用などに努め、保全を図っていく

●活気のある自立都市をめざすまちづくり
多摩ニュータウン事業によって高度かつ多様なインフラ整備が進んでいる都市特性を活かし、商業・業務施設、文化施設、教育施設、交通施設など多様な都市機能が複合的に集積する、活気にぎわいのある自立性の高い多摩地域の中核都市をめざします。

●豊かな自然と調和したまちづくり

市域にはゆとりと流れる多摩川や、多摩丘陵の面影をとどめた起伏に富んだ丘陵地があります。これは、多摩市と市民にとってかけがえのない貴重な財産です。自然環境を壊すことは簡単ですが、人工的に創造していくには長い年月がかかります。こうした考えに立ち、多摩市では、現存する自然環境を多摩市と市民の貴重な財産として大切に保全し、必要に応じて回復に努めながら、やすらぎとうるおいのあるまちづくりを市民、行政、民間と協働して推進していきます。

●すべての年齢層に魅力のあるまちづくり

社会・経済が進展し、高度情報社会、国際化社会、少子高齢化社会などといわれている今日、市民意識は多様化し、余暇時間も拡大しています。これら市民の多様なライフスタイルに配慮したゆとりのある住居の確保や魅力のある都市空間や施設づくりに努め、すべての年齢層の市民がいきいきと活動し、生活できる魅力のあるまちづくり、定住意識の高いまちづくりを推進していきます。

●新たな時代に対応したまちづくり

21世紀が目前に迫った今日、開発により失った自然環境の回復、防災まちづくり、少子高齢化、高度情報化時代への対応など、都市が抱える課題は数多くあります。これらの課題にそって見直しを行い、21世紀という新たな時代に対応するまちづくりを推進していきます。

●市民と一体のまちづくり

多摩市は、国、東京都と協力し、都市計画に基づいた市街地開発整備や基盤施設の整備などを推進し、多摩地域の中核をなす都市を形成しつつありますが、活力のある都市、やすらぎとうるおいのある自立都市を実現するため、市民、行政、民間が一体となってまちづくりを推進していきます。

目次

- 1. 基本的な方針の役割とまちづくりの目標 P.1
- 2. 都市整備の基本方針 P.3
- 3. 地域開発まちづくりの方針 P.5
- 4. 基本的な方針の推進に向けて P.10

2 都市整備の基本方針

1 土地利用の方針

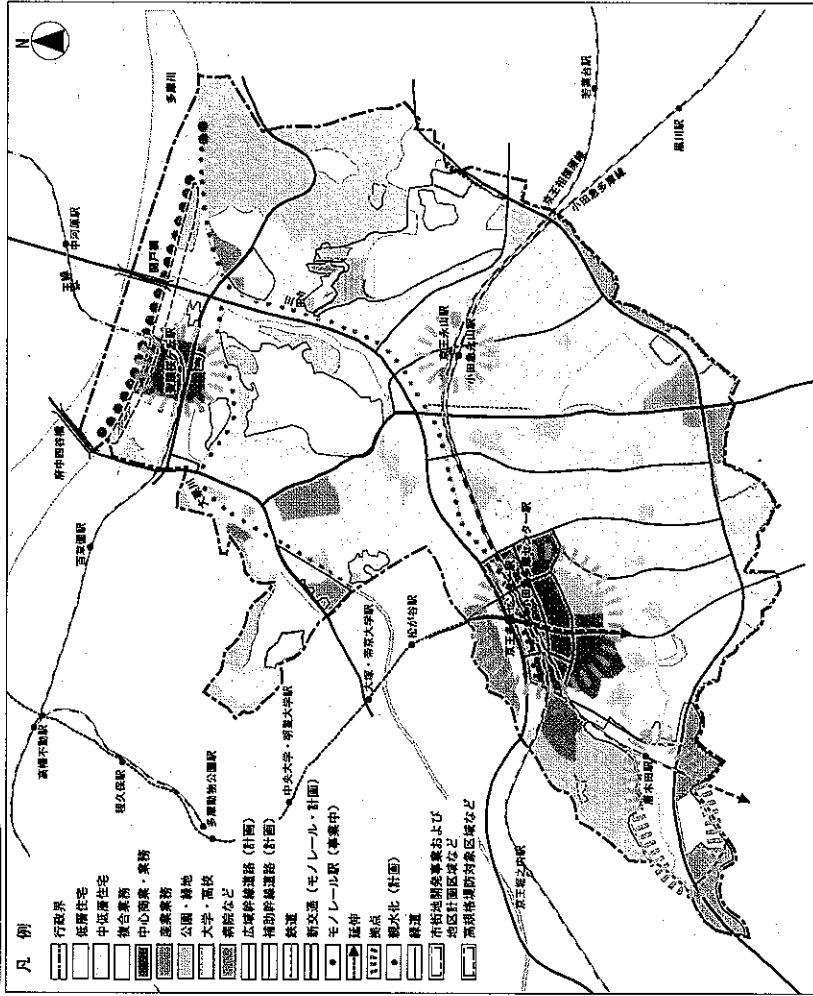
まちづくりの目標に基づき、都市の骨格を考慮した上で、具体的な土地利用について、地域の特性を活かし、計画的で合理的な土地利用の方針を設定します。

- 住宅地については、低層住宅、中低層住宅、中高層住宅など、それぞれの地域の特性にあわせた土地利用を考えます。
- 商業・業務地については、中心商業地や地域の商店街などの特性や、商業、業務、文化、教育などの施設の立地や商業・業務活動の積極的な展開を考慮した土地利用を考えます。
- 一体的な建物用途のまとまりや、周辺と調和した土地利用を図った良好な市街地を形成するとともに、高層化が容認できる地域においては、建築物の高層化を誘導・促進します。

進し、建ぺい率を抑制することによりオープンスペースを確保します。

- 多摩市内の主要な緑地などについては、市民にうるおいを与える空間として保全するとともに、市内を流れる河川については、治水能力を向上しつつ、親水化を促進します。
- 社会情勢の変化を踏まえ、市内の都市計画一回地の住宅施設については周辺地域とのバランスなどを考慮しながら、時代の変化に対応した見直しを行います。
- 多摩ニュータウン区域内にある未利用地や、小中学校統合の跡地については、都市機能や地域の特性などを勘案しながら土地利用を図ります。

将来構想図



2 住環境・住宅の整備方針

- すべての年齢層にとってやさしく、魅力あるまちづくりを目標とし、高齢世帯や若年世帯、単身世帯など市民のライフスタイルの変化に対応し、長く住み続けられる住宅づくりを推進します。
- 豊かな自然環境を大切に、環境や生態系に配慮しながら、生活にうるおいを与える住環境づくりをめざします。
- 地域のコミュニティ活動が育つような、人と人がふれあえるまちづくりをめざします。

3 商業・産業・業務の整備方針

- 多摩市内4駅を中心とした各拠点地区や主要幹線道路沿道地区などの商業地、業務地、産業業務地については、それぞれの地域特性にあわせて、商業・業務施設を兼業して、活気と魅力あるまちづくりを推進します。
- 商業地、業務地、産業業務地については、土地利用を促進・納化し、地域産業の育成や商業・業務施設の誘致などにより、職住近接のまちづくりを推進します。

4 水と緑の整備方針

- 「水辺」と「緑」を都市の魅力として活用し、多摩市のアイデンティティを高めめます。
- 市内の環境保全、レクリエーション、美しい景観形成や防災などに寄与する公園、緑地の確保に努めます。
- 市内の貴重な水や緑などの保全と育成に努めます。
- 市内の公園・緑地・緑道や河川・水辺による水と緑のネットワークの形成を図ります。
- 市民・行政・民間の協働による緑の保全・創出に努めます。

5 交通ネットワークの整備方針

- 多摩地域の幹線道路網となる都市計画道路や多摩川架橋の整備促進を図ります。
- 都市計画道路を充実し、生活道路として利用される、道路網の整備を図ります。
- 駅周辺地区や商業・業務地および住宅地区での駐車場・駐輪場の整備を図り、交通の円滑性、施設利用の利便性の向上、緊急時の交通確保などに努めます。
- 高齢者、障害者、低年齢者などの歩行者の安全性、利便性を重視し、歩道の整備など、人にやさしい交通環境の形成を図ります。
- 高齢化社会への対応、環境への負荷の低減、また、利便性向上のために、多摩市内内外の広域の公共交通体系を充

実するとともに、公共公益施設のバリアフリー化を促進します。

- 地域の交通需要の多様化や地形特性などを配慮した、きめ細やかなサービスをめざし、多摩市内の移動性を高めま

6 景観づくりの方針

- まちの景観を構成する要素として、道路、公園、公共建築物などの公共施設は、先導的な役割を示しています。民間施設も含めて、より良い景観を形成していきます。
- 多摩市の景観づくりにあたって多摩川や多摩丘陵などの重まれた自然空間による水と緑の空間形成と、計画的に整備された美しいまちの形成を図り、自然空間と都市的空間が調和した快適で、魅力ある都市景観の創出に努め、多摩市や地域の顔づくりを進めます。
- 市民・行政・民間の協働による景観づくりを図ります。

7 防災まちづくりの方針

- 地震時の建造物の倒壊や大規模火災の発生、洪水時の浸水などの災害への対応を考慮し、地域の防災対応力の向上を図ります。具体的には、都市基盤施設の耐震強化、不燃地の促進、避難地の確保、情報伝達やライフラインの確保などにより、安全で安心して住むことのできるまちづくりをめざします。

- 災害が発生した場合は被災市街地復興特別措置法などの関係法令にもとづき、計画的な市街地復興に対応します。

8 福祉まちづくりの方針

- 多摩市の都市特性を考慮し、だれもが安心して生活し、活動ができる都市環境を備えた、住みやすいバリアフリー化のまちづくりをめざします。

- 歩行者専用空間や公共交通手段の見直しを行い、すべての市民が快適に行動できるように都市環境づくりをめざします。

- 公共公益施設などにおいては、高齢者や障害者が安全で快適に利用しやすい施設整備に努めます。

- 高齢者や障害者が、安心して生活できる地域の福祉意識の向上と、相互の理解、協働ができるまちづくりを推進します。

9 生活関連施設の整備方針

- 環境問題、多様化する市民生活への対応、地域活動支援など、都市として、必要不可欠な生活関連施設の整備、充実を図り、長く安心して快適に住むことのできるまちづくりを推進します。